

施工の際は、必ず食洗機同梱の取付設置説明書も参照しながら施工してください。



通信料はお客様のご負担となります。また、機種によりご利用になれない場合があります。
<https://sumai.panasonic.jp/dishwasher/manual/new.html>

概要

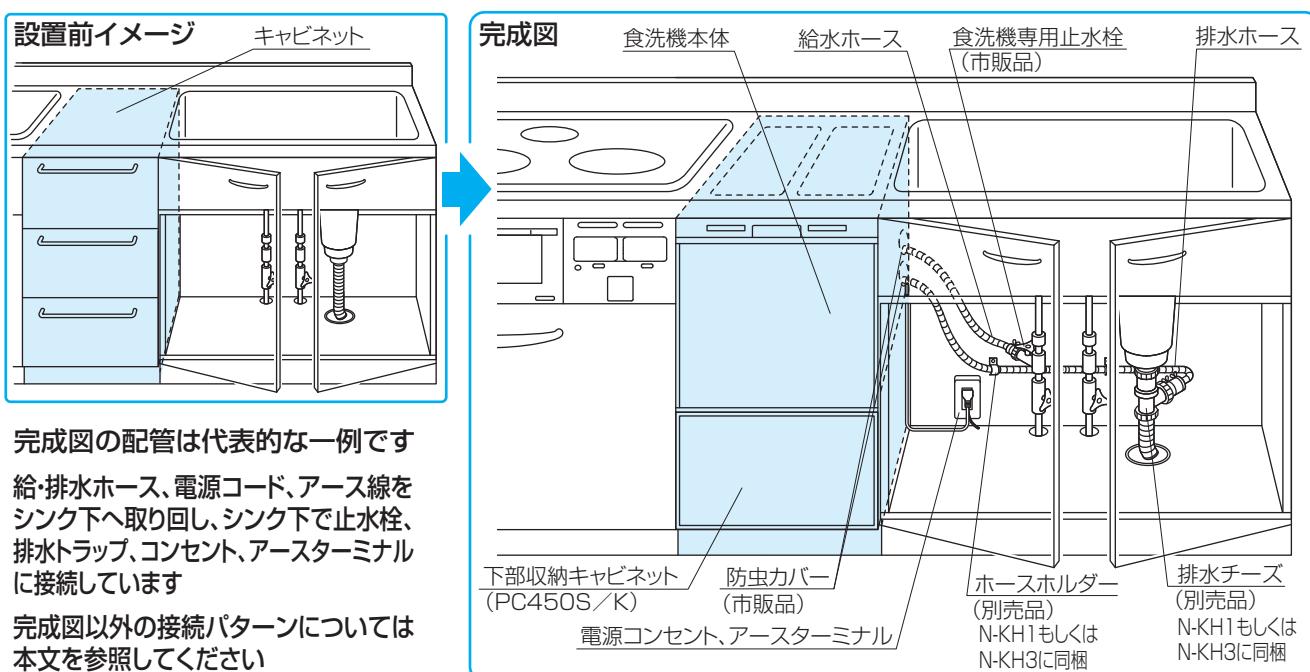
この施工例は、キッチンから幅 450mm のキャビネット本体を撤去して、ミドルタイプの食洗機本体と下部収納キャビネット (N-PC450S/K) とを組み合わせて設置する手順について説明しています。

手順は NP-45VS9S を主体に説明しています。それ以外の機種を施工する場合は手順が異なる場合がありますので、必ず食洗機同梱の取付設置説明書も参照しながら施工してください。

【注意】

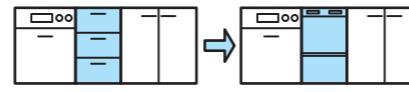
食洗機を設置する際、キッチン本体を加工する必要がある場合は、まずキッチンメーカーへ加工の可否を確認してください。確認ができたらお客様に加工の内容を説明して、必ず承諾を得てから加工してください。

完成図



施工の流れ

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 キャビネットの撤去 | 8 フィラーの取り付け(一部機種) |
| 2 補強部材の取り付け | 9 ボデー枠の調整とスペーサーの貼り付け |
| 3 電源、アースの設置 | 10 本体の設置および固定 |
| 4 下部収納キャビネットの取り付け | 11 給湯(給水)管および排水管との接続 |
| 5 転倒防止金具および調整金具の取り付け | 12 本体取り付け状態の確認 |
| 6 給・排水ホース通し穴の加工 | 13 試運転の実施 |
| 7 給・排水接続部の設置 | 14 試運転後の作業 |



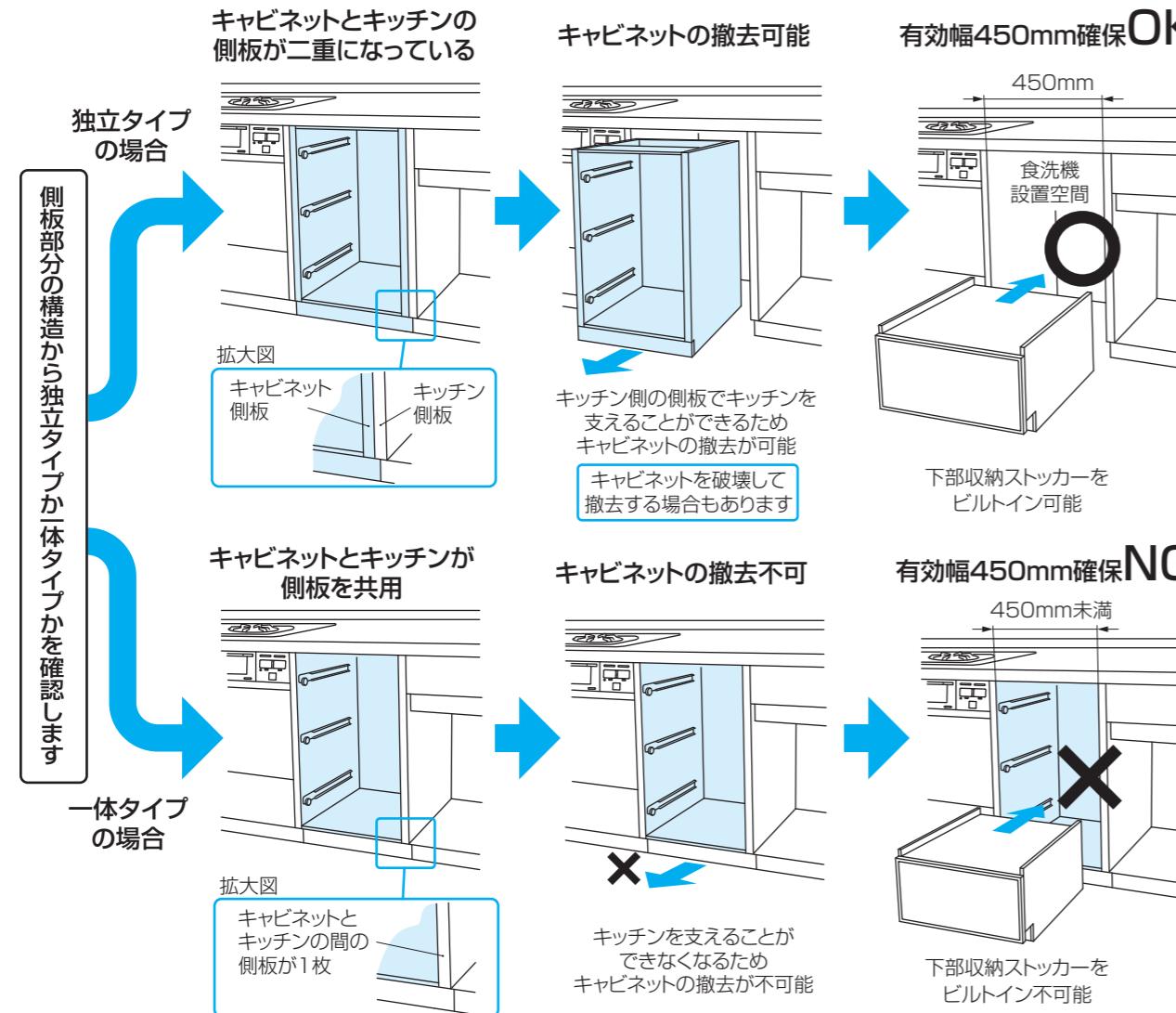
■ 設置条件

施工前に設置空間、給・排水、電源などの各種設置条件を満たしていることを確認してください。

この施工例の設置条件は、キャビネットが幅 450mm の独立タイプであることを前提としています。

独立タイプはキャビネット本体をキッチンから撤去できるため、ビルトインに必要な有効幅 450mm の食洗機設置空間を確保可能ですが、一体タイプはキャビネット本体を撤去できないため側板がキッチンに残り、有効幅 450mm の食洗機設置空間を確保できません。

この施工例で設置する下部収納キャビネット (N-PC450S/K) は幅が約 450mm あるため、有効幅 450mm の食洗機設置空間を確保できる独立タイプのキッチンには設置可能ですが、食洗機設置空間を確保できない一体タイプのキッチンにはビルトインできません。

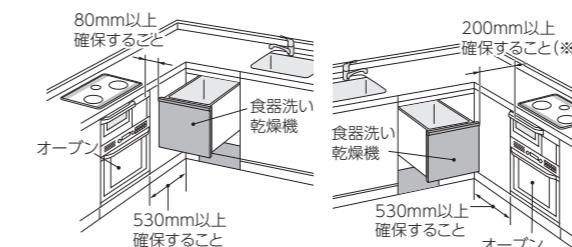


カウンターアーの後付け

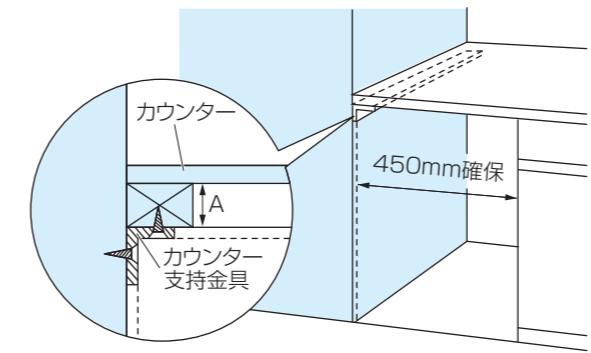
詳細施工例②

■ 設置空間条件の留意点

◎ 9 Plusシリーズの場合



※ 200mmは洗剤タンク取り出し・取り付けができる最小のスペースであり、余裕を持って行うには250mm以上のスペースを推奨します。



● L型コーナー部に設置する場合

- 近接する機器と接触しないよう、食洗機ドアの開閉スペースを確保してください。
- 9 Plusシリーズの場合、洗剤タンクの取り出し・取り付けができるよう、食洗機の右側とキッチンのスペースを確保してください。
- 法令義務により、本機やキッチンの金属部を家屋の壁中のラス（モルタル下地の金網）や金属板に電気的に接触しないようにしてください。

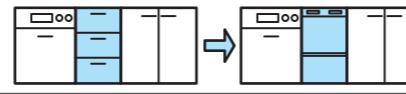
※ 法令：電気設備の技術基準の解釈

● 片側が壁面やトールユニットの場合

- 設置空間の幅 450mm を確保できることを確認したうえで市販の L型金具などを使用してカウンターを補強します。
- 法令義務によりカウンター金属部に接続させないため、締結ビスの長さは図 A 寸法より 5mm 以上短くしてください。

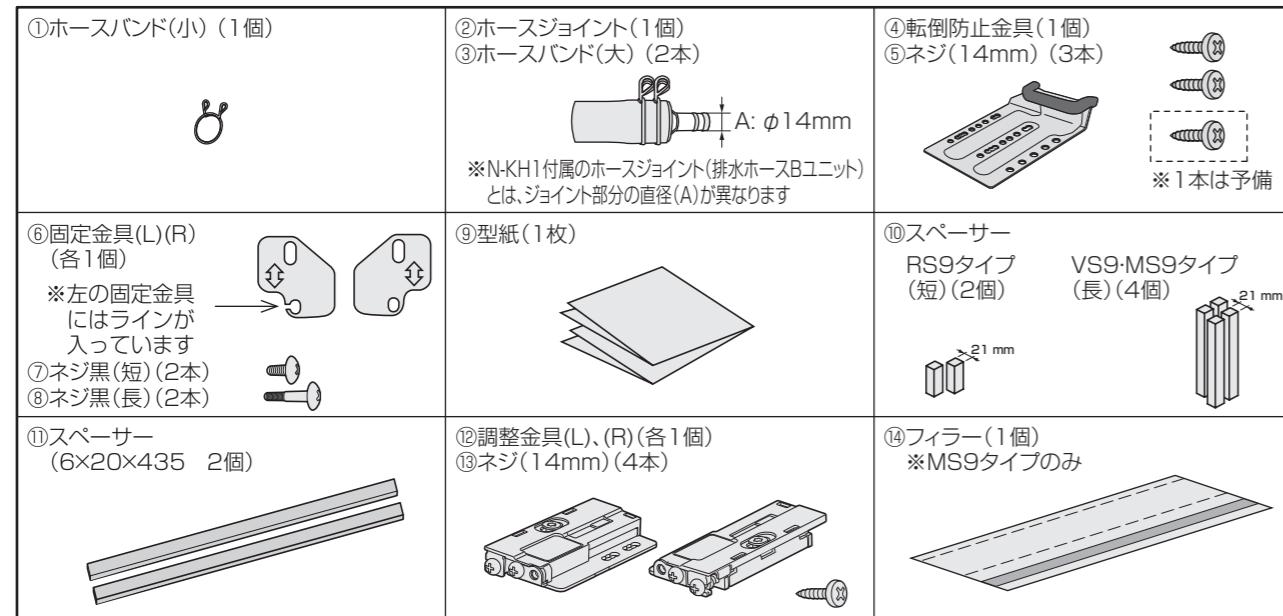
※ 法令：電気設備の技術基準の解釈

[別売部材]
カウンター支持金具 (JUG02NL3P) もあります。
(パナソニック ハウジングソリューションズ(株)扱い)



■ 食洗機本体同梱品一覧 (ミドルタイプ)

- フライヤーはMS9シリーズのみ付属します。
- 機種によってスペーサーの形状、個数が異なる場合があります。
- 型紙、厚さ6mmのスペーサーはこの施工例では使用しません。



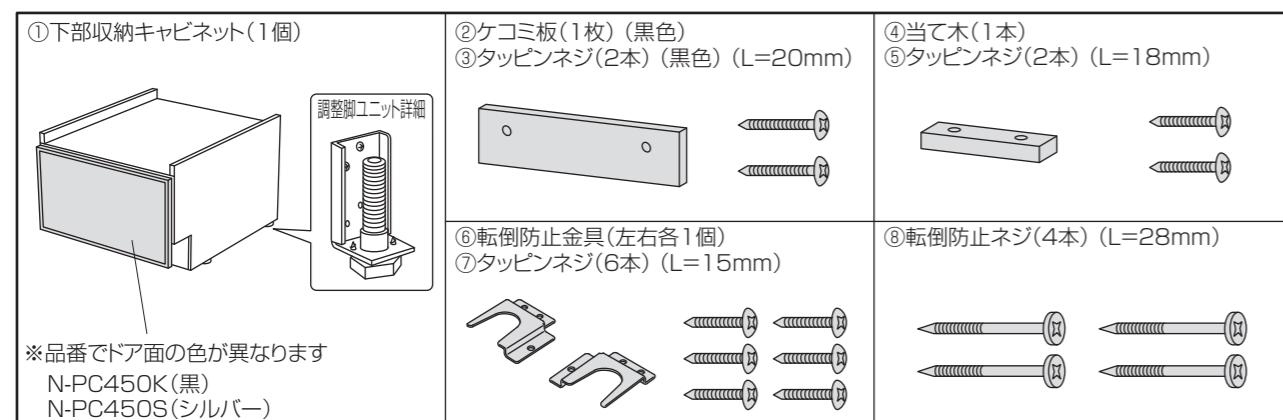
■ 必要部材

● 下部収納キャビネット (アジャスター付きフルオープン専用キャビネット)

キッチン空間 事業部扱い	N-PC450S (ドア面カラー: シルバー) 希望小売価格 38,500円 (税抜 35,000円 / ドアパネル・工事費別)
	N-PC450K (ドア面カラー: ブラック) 希望小売価格 33,000円 (税抜 30,000円 / ドアパネル・工事費別)

- ミドルタイプの食洗機を幅450mmのカウンターワークに設置する際に使用するキャビネットです。

この施工例では必要となるため、事前に準備をお願いします。



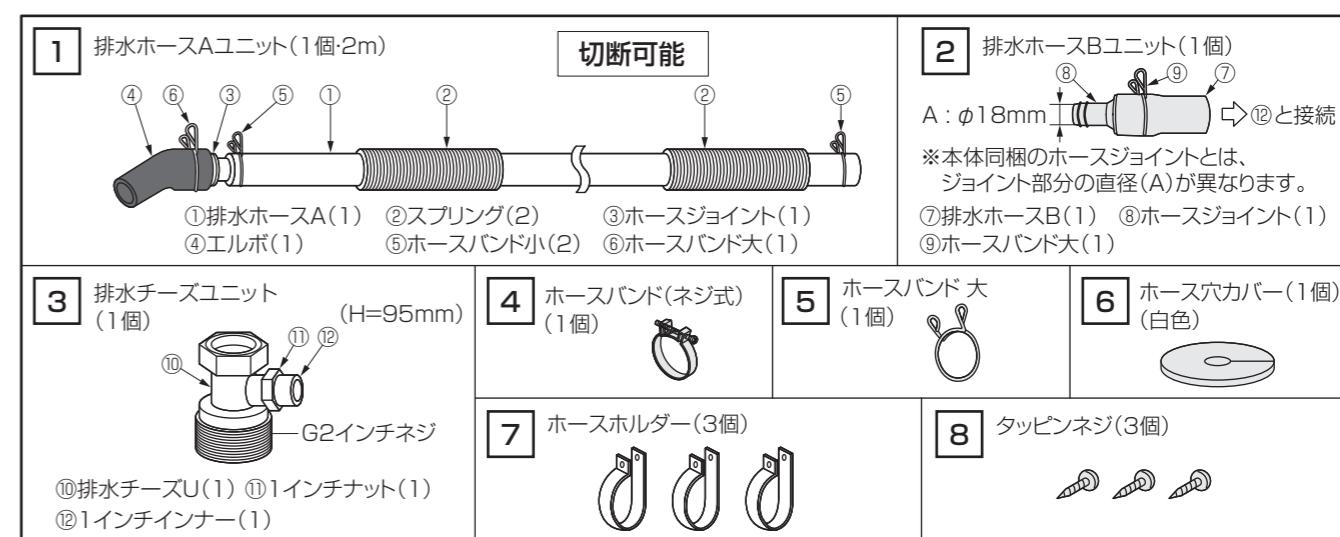
■ 施工関連部材

- 施工関連部材は全て必要ではありません。設置するキッチンの状態、形状から必要な部材を選択して下さい。

● 簡易排水管 (N-KH1)

キッチン空間事業部扱い 希望小売価格 6,600円 (税抜 6,000円 / 工事費別)

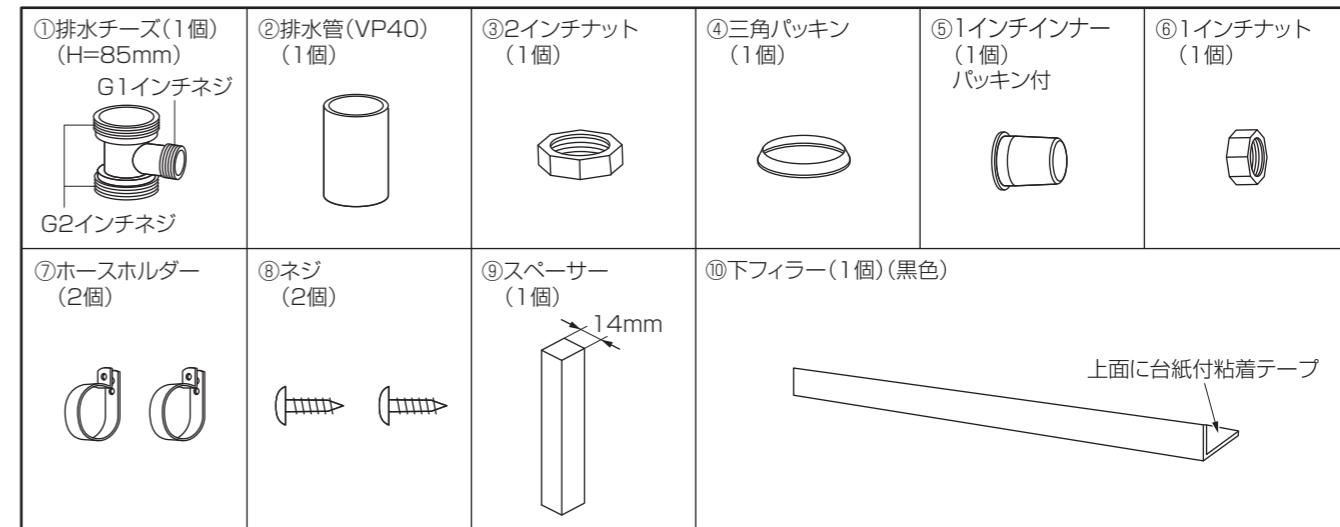
- 排水ホースを延長する場合は、必ず使用してください。
- 施工に必要な排水部材をセットしたものです。直接キッチンの排水トラップへ分岐接続する場合は③を、食洗機本体の排水ホースの長さでは排水管の接続部まで届かない場合には①、②を使用する等、接続先の状態、形状によって組み合わせて使用します。
- キッチンの状態、形状によっては不要になる部品もあります。

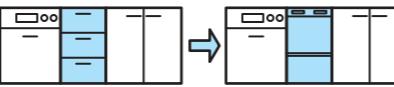


● 簡易排水管キット (N-KH3)

キッチン空間事業部扱い 希望小売価格 7,700円 (税抜 7,000円 / 工事費別)

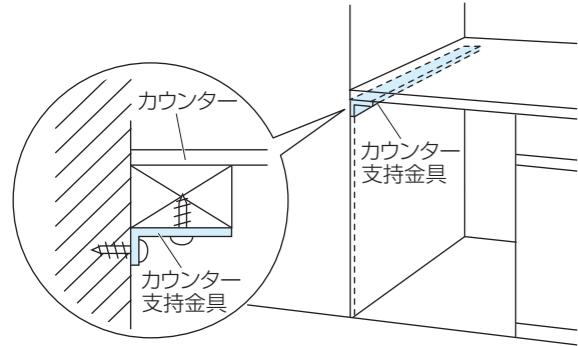
- 施工に必要な排水部材をセットしたものです。直接キッチンの排水トラップへ分岐接続する場合や、横引き管等の排水管に直接接続する場合に使用します。
- キッチンの状態、形状によっては不要になる部品もあります。





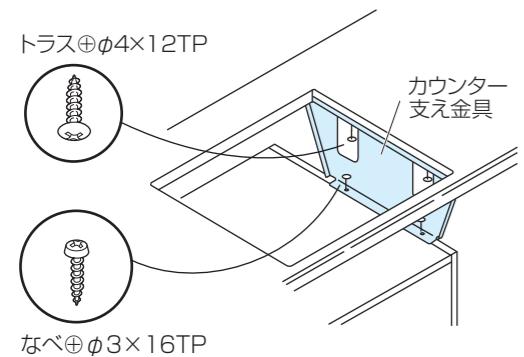
● カウンター支持金具 (JUG02NL3P)

- 食洗機設置空間の片側が壁面やトールユニットの場合など、壁面側でワークトップ（カウンター）を支えて補強する際に使用します。



● カウンター支え金具 (JUGSZFKA)

- 加熱機器下のキャビネットとワークトップとの間に設置して、ワークトップ（カウンター）を支えて補強する際に使用します。



キット内容

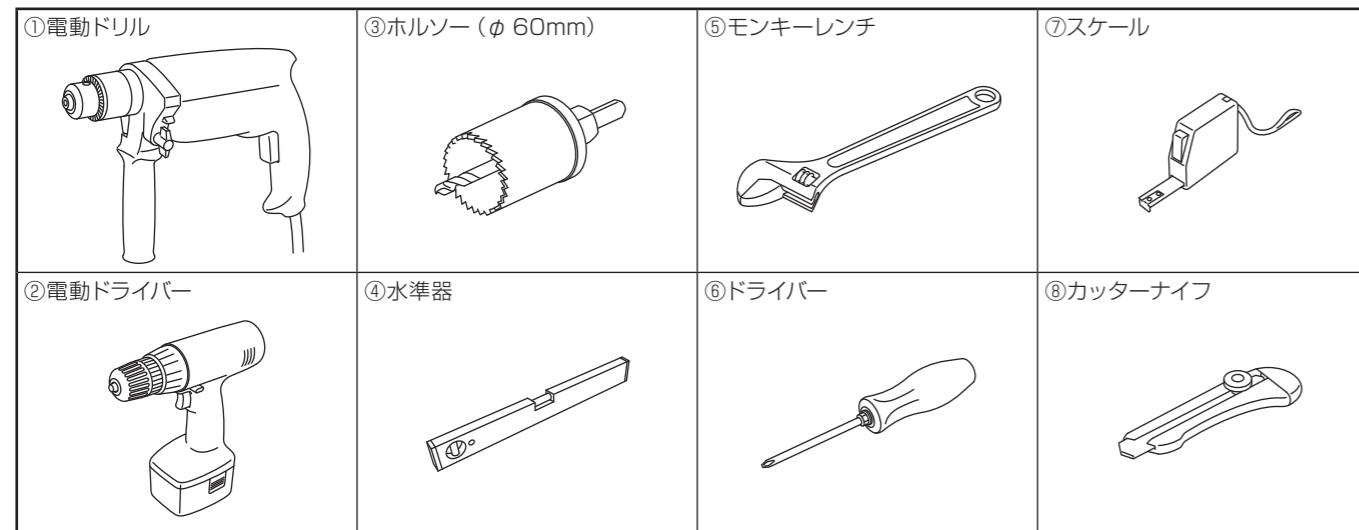
部材	内 容	数 量
カウンター支え金具 (JUGSZFKA)	カウンター支え金具 (486×36×193)	1本
	スペーサー板 (t=4)	2本
	トラスタッピンネジ (φ 4×12TP)	2本
	なべタッピンネジ (φ 3×16TP)	2本

【参考】

市販の角材を使用して補強する方法もあります。
(補強部材の取付け [09 ページ](#))

■ 主要工具類

- 施工に必要な主要工具類です。事前に準備をお願いします。



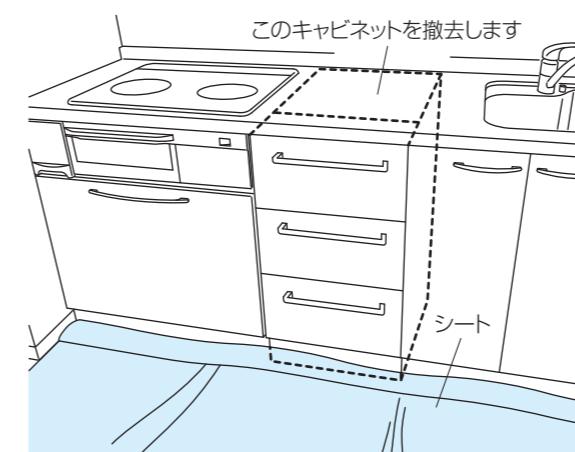
カウンターワークの後付け

詳細施工例②

施工手順

1 キャビネットの撤去

【図 1】

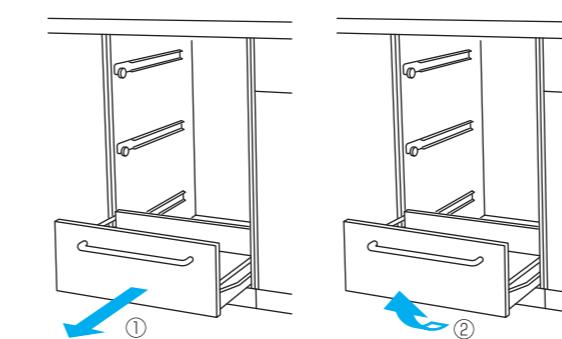


養生作業

- 傷つきや汚損を防止するために、取り外すキャビネット周辺の床面をシート等で保護します。

【図 1】

【図 2】



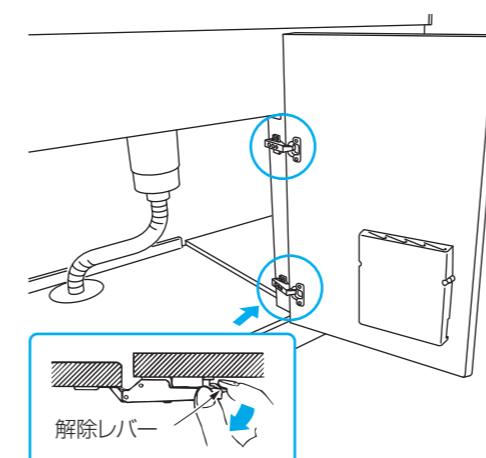
引き出しの取り外し

- 引き出しをいっぱいまで引き出し、斜めに持ち上げて取り外します。

【参考】

上記以外にも、ストップバーを手動で解除して取り外すタイプもあります。

【図 3】

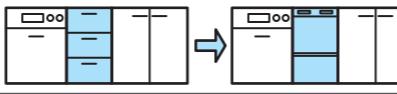


開き扉の取り外し

- 扉を保持します。
- 扉下側、扉上側の順にヒンジの解除レバーを引き、ロックを解除します。
- 扉を取り外します。

【参考】

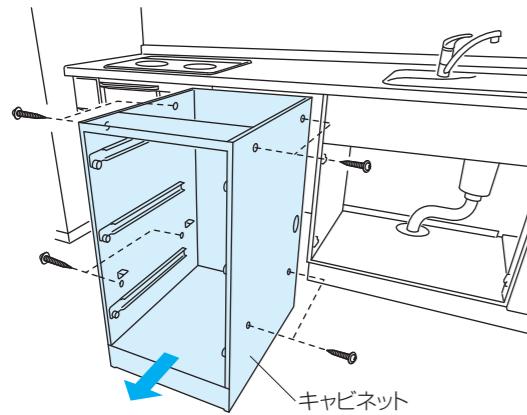
上記以外にも、前後調整ネジを緩めて扉を取り外すタイプもあります。



【注意】

お客様にキャビネットを撤去する理由を説明して、ご了解を得たうえで撤去してください。

【図4】



キャビネット撤去前作業

【注意】

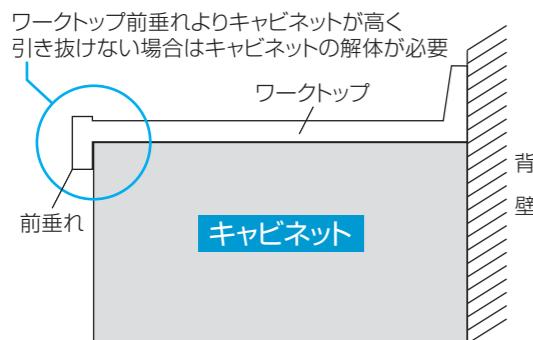
ワークトップの変形を避けるため、キャビネット取り外し前にワークトップ上から調理器具等を取り除いてください。

- (1) キャビネットを加熱機器側およびシンク側に固定しているネジすべてを取り外します。 【図 4】

【参考】

加熱機器側からネジ固定されている場合は、加熱機器の脱着が必要になる場合があります。

【図5】



キャビネット撤去(引き出し可能な場合)

- (1) キャビネットをキッチンから引き出します。 【図 4】

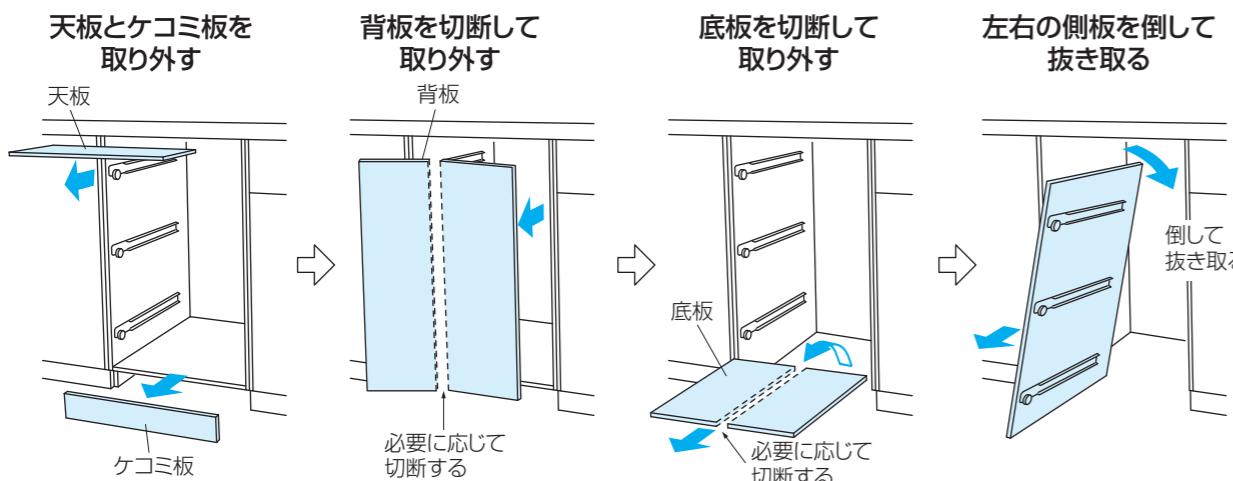
キャビネット撤去(引き出し不可能な場合)

- (1) ワークトップ前垂れ部がキャビネットに当たり、引き出せない場合は、キャビネットを解体して取り外してください。 【図 5】

COLUMN

キャビネット解体の一例です。背板や底板を先に取り外してから、左右の側板を抜き取ります。 【図 6】

【図6】

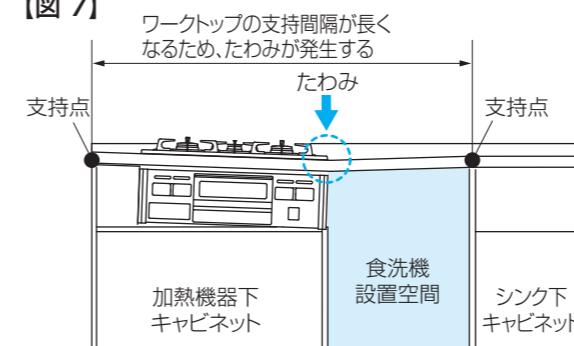


カウンターワークの後付け

詳細施工例②

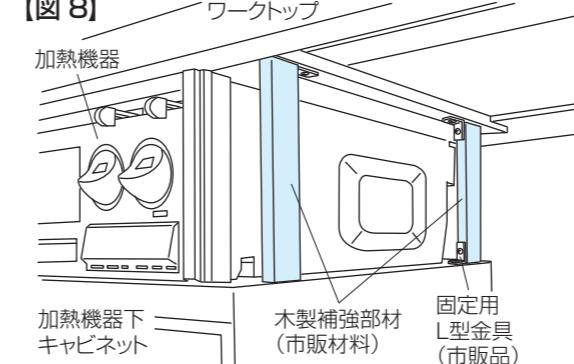
2 補強部材の取り付け

【図7】



- (1) キャビネット本体でワークトップを支えるタイプのキッチンは、キャビネットを撤去するとワークトップの支持間隔が長くなるため、ワークトップがたわみ、変形する場合があります。 【図 7】

【図8】



- (2) キャビネットを撤去した状態で、加熱機器下のキャビネットがワークトップを支持していないキッチンは、市販材の補強部材を使用して、キャビネットとワークトップとの間を補強部材で支えます。 【図 8】

【別売部材】

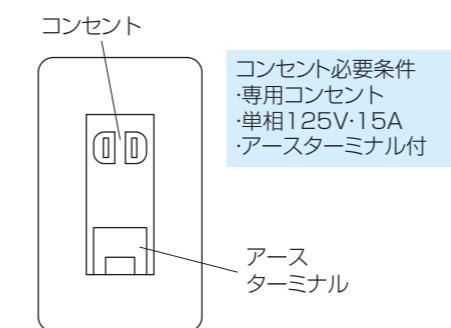
カウンター支え金具 (JUGSZFKA) もあります。
(パナソニック ハウジングソリューションズ(株)扱い)
(カウンター支え金具 (JUGSZFKA)) [□ 06 ページ](#)

3 電源、アースの設置

【注意】

電気工事、アース工事はすべて電気工事士の有資格者が、電気設備の技術基準に準じて行ってください。

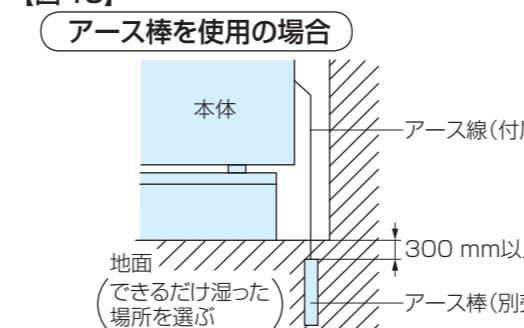
【図9】



電源コンセントの設置

- (1) 電源コンセントは、定格表示 125V、15A のアースターミナル付埋込みコンセントを使用してください。 【図 9】

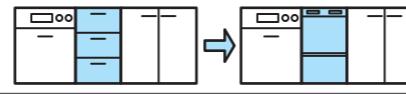
【図10】



- (2) 電源コンセントは、本体の電源コードの長さ(約1.4m)が届く範囲内で、メンテナンス上プラグの脱着しやすい位置に設置してください。

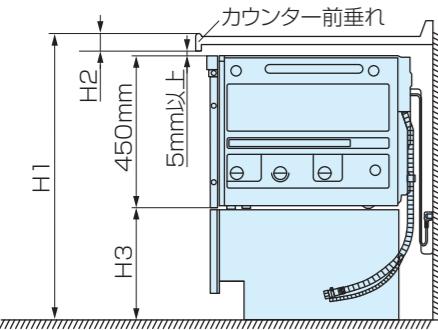
アース(接地)の設置 【図 10】

- ・感電事故防止のため必ず電気工事士によるD種(第3種)接地工事を行ってください。(法令により規定)
- ・ガス管や水道管、電話や避雷針、および漏電しゃ断器を入れた他の製品のアース回路には接続しないでください。(法令により禁止)
- ・アースターミナル付きコンセントは、接地抵抗値100Ω以下のものをご使用ください。



4 下部収納キャビネットの取り付け

【図 11】



下部収納キャビネットの高さ測定

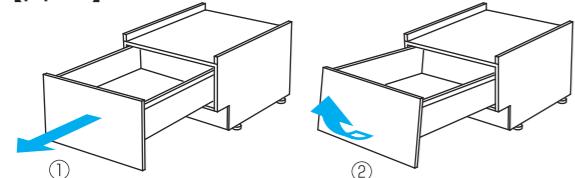
- (1) キッチンの高さ「H1」、カウンター前垂れ寸法「H2」を測定して、下部収納キャビネットの高さ「H3」を次の式で求めます。 【図 11】

$$H3 = H1 - (450\text{mm} + 5\text{mm} + H2)$$

【参考】

- 式の「450mm」は食洗機本体の高さを示します。
- 「5mm」は食洗機本体とカウンター前垂れの隙間を示します。メンテナンスの際の作業性を考慮して、5mm以上確保してください。

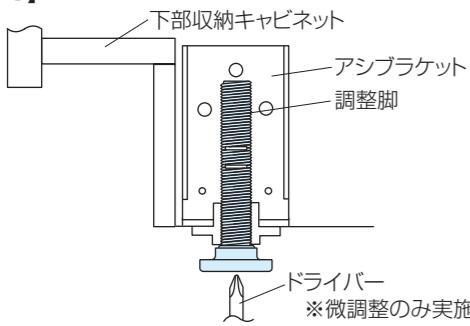
【図 12】



下部収納キャビネット用引き出しの取り外し

- (1) 引き出しをいっぱいまで引き出し、斜めに持ち上げて取り外します。 【図 12】

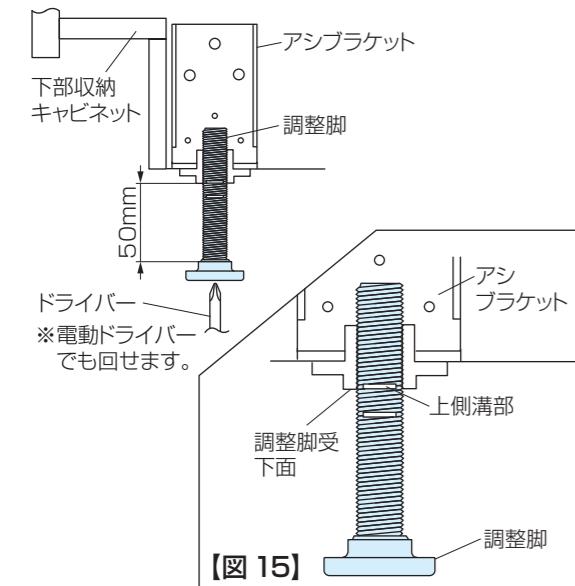
【図 13】



キッチンの高さ「H1」が公称 800mm の場合

- (1) キッチンの高さ「H1」が公称 800mm の場合は、下部収納キャビネットを開梱したそのままで、調整脚の微調整のみ実施してください。 【図 13】

【図 14】



キッチンの高さ「H1」が公称 850mm の場合

- (1) キッチンの高さ「H1」が公称 850mm の場合は、(2)、(3)いずれかの方法で調整してください。
- (2) 下部収納キャビネットを開梱した状態から調整脚を回転させて出代が 50mm になるよう調整します。 【図 14】

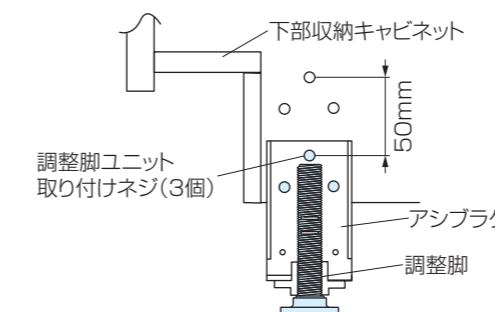
【参考】

調整脚のネジ部には 2ヶ所溝があり、この溝のうち、上側の溝を調整脚受下面に合わせると調整脚の出代が 50mm になります。 【図 15】

カウンターワークの後付け

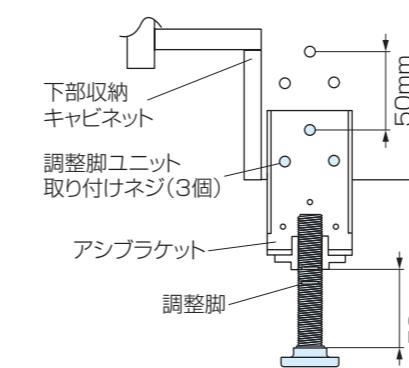
詳細施工例②

【図 16】



- (3) 下部収納キャビネットを開梱した状態から調整脚ユニット取り付けネジを取り外し、あらかじめ 50mm 下方に開けられた下穴に締めなおします。 【図 16】

【図 17】



キッチン高さ「H1」が公称 900mm の場合

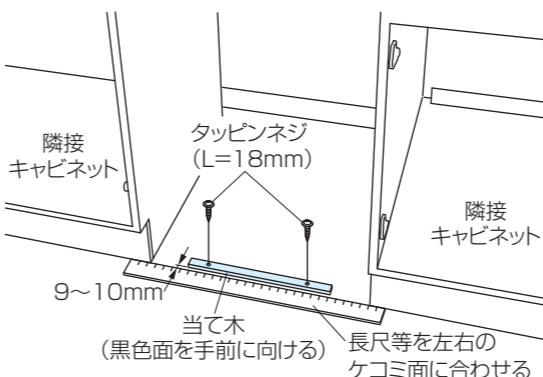
..... 【図 17】

- (1) 下部収納キャビネットを開梱した状態から調整脚ユニット取り付けネジを取り外し、あらかじめ 50mm 下方に開けられた下穴に締めなおします。
- (2) 調整脚を回転させて出代が 50mm になるよう調整します。

【参考】

作業内容は、キッチン高さ「H1」が公称 850mm の場合と同じです。

【図 18】

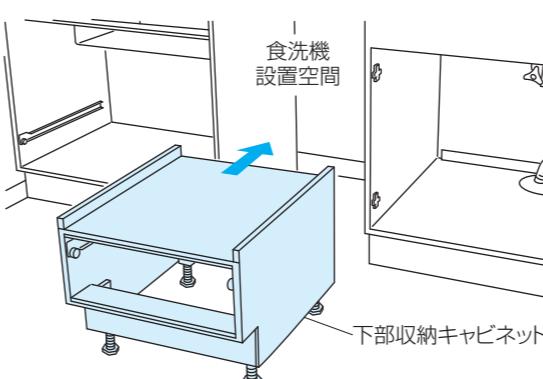


当て木の取り付け

..... 【図 18】

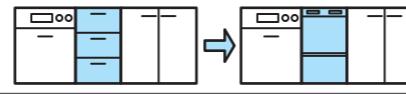
- (1) 隣接するキャビネットのケコミ面から 9~10mm の位置に、キャビネット同梱の当て木を黒色面が手前になるように配置します。
- (2) タッピンネジ 2 本で直接床面に取り付けます。

【図 19】

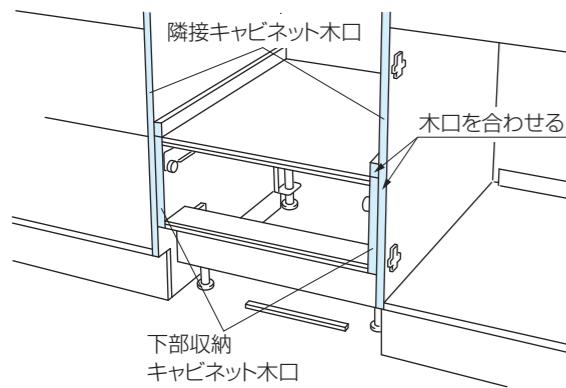


下部収納キャビネットの配置

- (1) 下部収納キャビネットを設置空間に配置します。 【図 19】



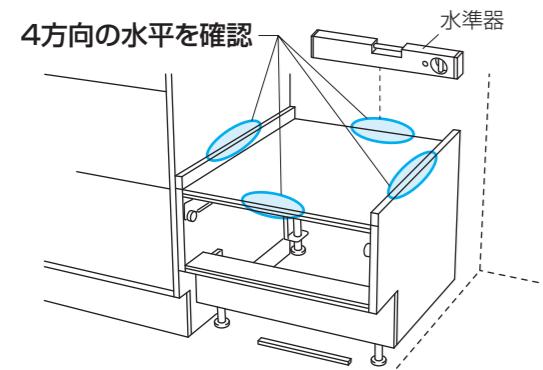
【図20】



(2) 下部収納キャビネットの木口と隣接するキャビネットの木口とを合わせて、位置を調整します。

.....【図20】

【図21】



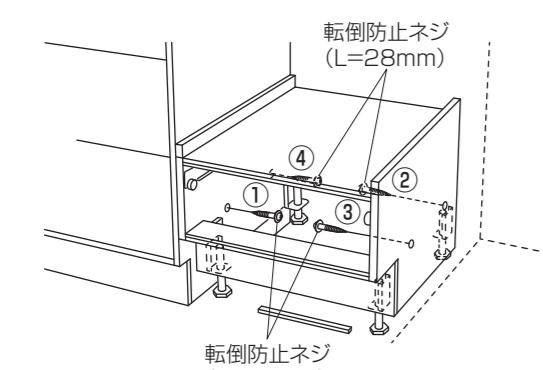
(3) 調整が完了したら、水準器を用いて、前後方向、左右の4方向に傾きがないように調整してください。

.....【図21】

【注意】

下部収納キャビネットに傾きがあると本体の設置不良による不具合や、ケコミ板の取り付け不良の原因となるため、水準器を使用して確実に調整してください。

【図22】



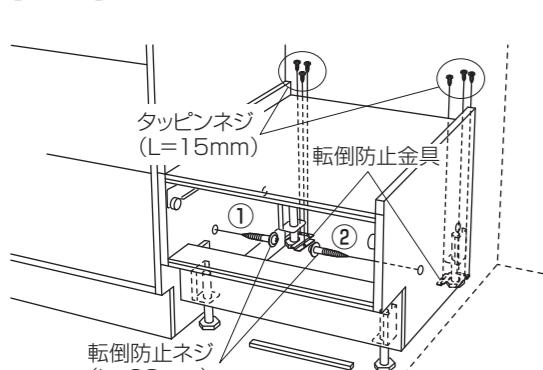
隣接するキャビネットの側板がパーティクルボードの場合

(1) キャビネット同梱の転倒防止ネジ4本を①→②→③→④の順に締付けて固定します。【図22】

【参考】

パーティクルボード：接着剤と混合した木材の小片を高温、高圧で成形した板材。

【図23】



隣接するキャビネットの側板がフラッシュ（中空）構造の場合

(1) キャビネット同梱の転倒防止金具を床面に取り付けてからキャビネットを配置して、金具に後部側の脚を取り付けます。

(2) 転倒防止ネジ2本を①→②の順に締め付けて固定します。

【参考】

フラッシュ構造：角材などで作られた枠の両面に薄い板を貼って作られる中空の板材。

カウンターワークの後付け

詳細施工例②

5 転倒防止金具および調整金具の取り付け

【注意】

電動ドライバーを使用すると下部収納キャビネットの下穴が破損して締め付け不良となるため、金具類の取り付けには電動ドライバーを使用せず必ず手締めしてください。

転倒防止金具の取り付け

.....【図24】

- (1) 同梱の型紙を使い、この型紙に記載されている説明に従って締め付け穴記号の位置と下穴とを合わせます。
- (2) 2本のネジ 14mm (同梱) で収納キャビネットの後側に取り付けます。

【注意】

下穴が破損して締まらなくなった場合は、予備のネジを使用して3列目の穴もネジ止めしてください。

調整金具の取り付け

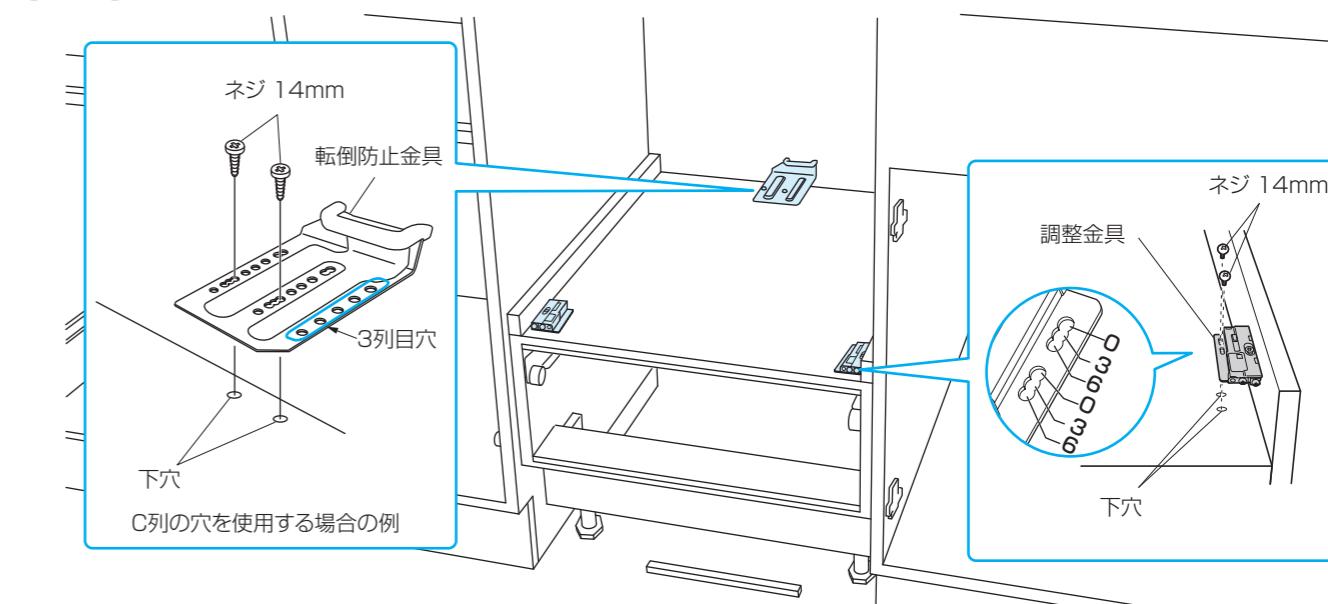
.....【図24】

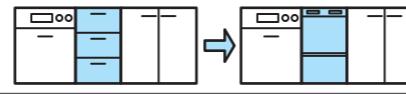
- (1) 同梱の型紙に合わせて開けた下穴に合わせて、調整金具 (L)(R) をネジ (14mm) 各2本で「O」の固定穴位置で取り付けます。

【注意】

ドア面材型の場合、面材の厚みによって調整金具の取付位置が異なります。詳しくは取付設置説明書をご覧ください。

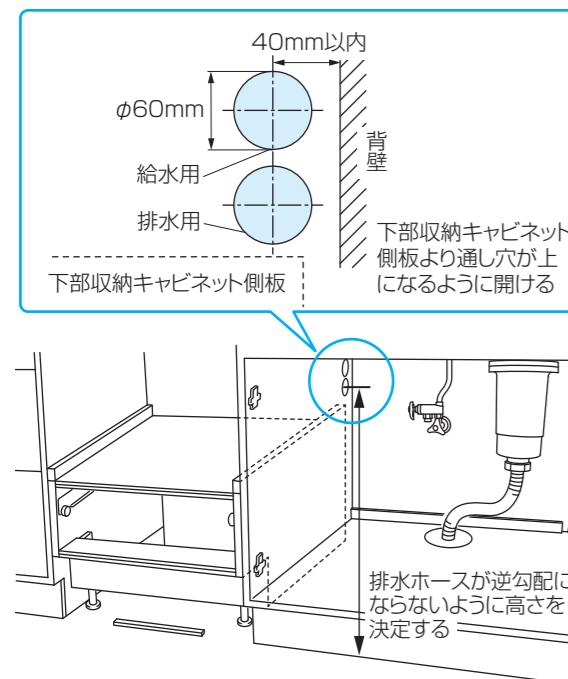
【図24】





6 給・排水ホース通し穴の加工

【図25】



(1) 給・排水ホースをキッチン下の配管に接続する場合や、簡易排水管キットを使用する場合は、キッチン側板に給・排水ホースを通す穴を、下部収納キャビネットの側板よりも上にして、かつ背壁から穴中心までの寸法が40mm以内になるよう開けてください。

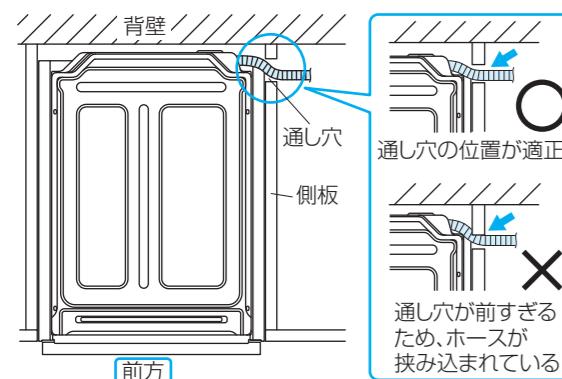
.....【図25】【図26】

【注意】

通し穴は、食洗機背面の排水ホース根元からキッチン側の排水接続部までの間で、排水ホースが下り勾配になるように配慮して開けてください。排水ホースが逆勾配になると排水が食洗機に逆流し、破損や水漏れの原因となります。

【図26】

*食洗機設置空間をキッチン上部から見ています



【注意】

通し穴はキャビネット側板の、背壁から40mm以内かつ、極力キャビネットの奥に開けてください。通し穴を必要以上にキッチン手前に開けると食洗機をビルトインした際に本体と側板の間に給・排水ホースが挟まりホースの切断や給・排水不良の原因となります。

.....【図26】

カウンターワークの後付け

詳細施工例②

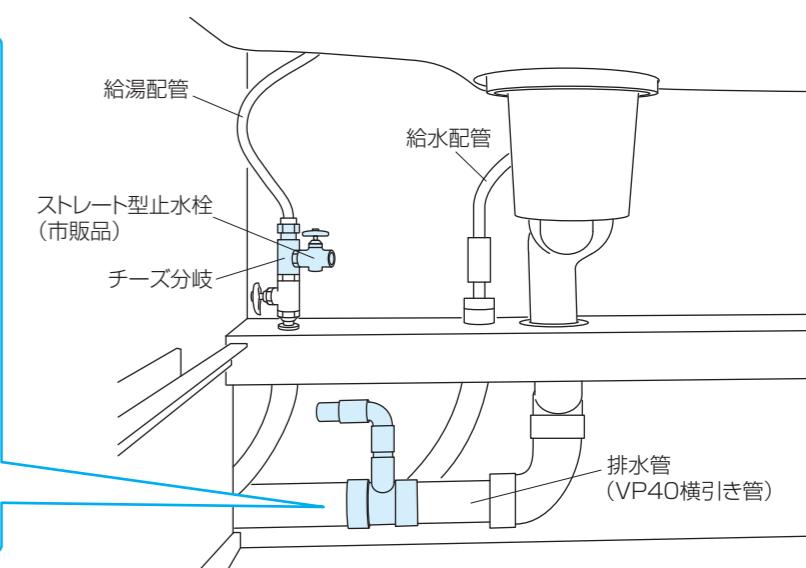
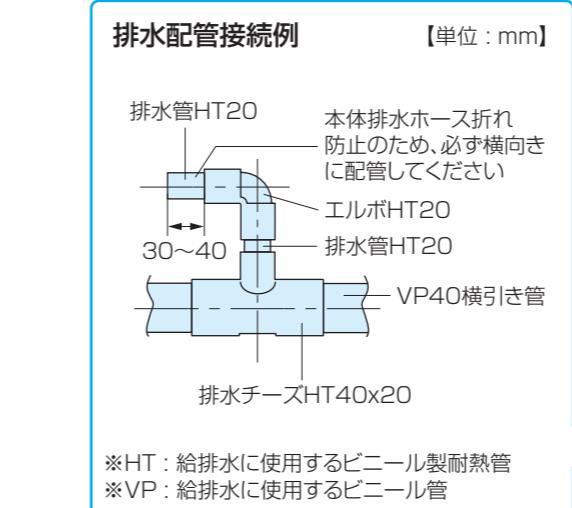
7 給・排水接続部の設置

VP 横引き管へ接続する場合

.....【図27】

- (1) 給湯(水)配管は分岐止水栓で給湯(水)配管へ接続します。
- (2) 排水管は、近接するシンクの背面に点検口や配管スペースがありVP横引き管に接続できる場合は、以下のように点検口を外してチーズ等で分岐接続してください。

【図27】



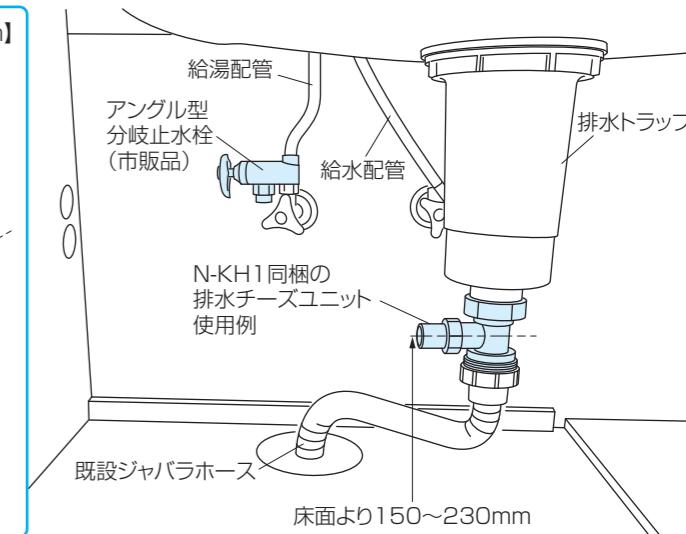
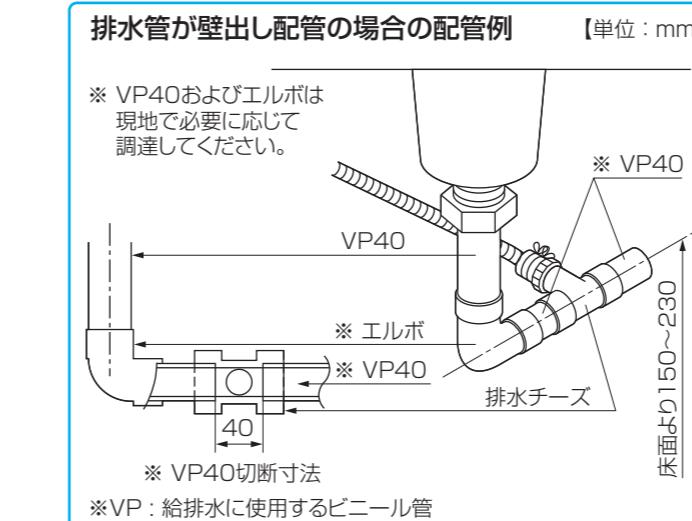
排水トラップおよび壁出し配管へ接続する場合

.....【図28】

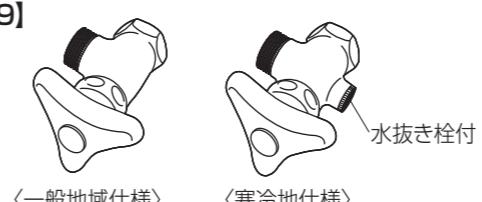
- (1) 給湯(水)配管は分岐止水栓で給湯(水)配管へ接続します。
- (2) 排水管は排水トラップから既設のジャバラホースを外して、チーズ等で分岐接続してください。
- (3) 壁出し配管等で排水トラップに接続できない場合は、VP40排水管に分岐接続してください。

【図28】

*給水・給湯配管の止水栓は点検口の奥にあり露出していない場合があります。



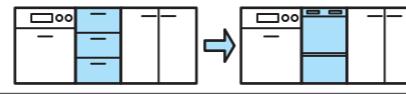
【図29】



【参考】

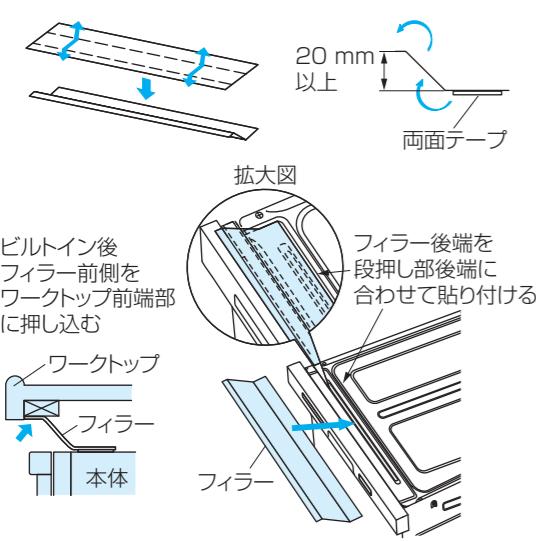
凍結が心配される地域に設置される場合は水抜き栓を有した寒冷地仕様の止水栓を取り付けてください。

.....【図29】



8 フィラーの取り付け（一部機種）

【図30】



フィラーの取り付け (MS9 シリーズのみ)

【図30】

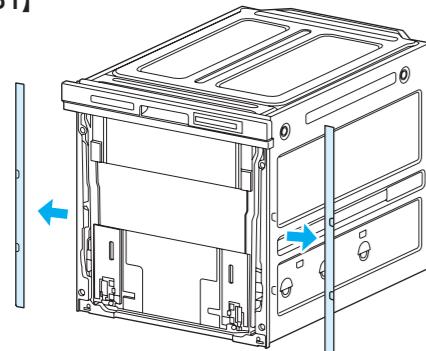
- (1) フィラーの折り目(ミシン目)に合わせて図のように折り曲げ、下部の両面テープの離型紙をはがします。
- (2) 本体天面にある段押し部にフィラー後端を合わせ、左右均等になるように貼り付けます。
- (3) 本体ビルトイン後にフィラーが前側にはみ出さないように、天板形状に合わせてフィラーを天板前面部に押し込みます。

【参考】

フィラーは騒音低減のため、付属する機種は必ず取付けてください。

9 ボデー枠の調整とスペーサーの貼り付け

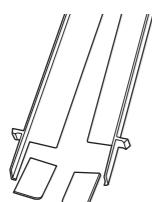
【図31】



ボデー枠の調整

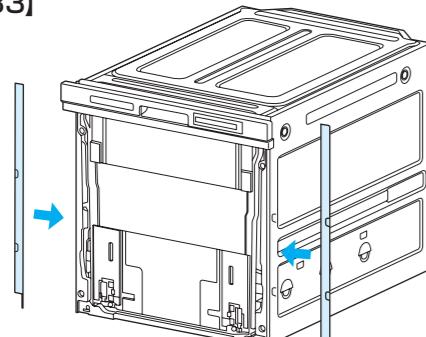
- (1) 本体左右にあるボデーバンドB サポータを外します。 【図31】

【図32】



- (2) 左右のボデーバンドB サポータは測定した側板の高さ-1.5cmで切り取ります。 【図32】

【図33】



- (3) ボデーバンドB サポータを元の位置に戻します。 【図33】

【注意】

- ・切り取らずに設置すると、調整金具での後方向の調整ができなくなります。
- ・ボデーバンドB サポータの調整方法は、置台の側板の形状、高さによって異なります。N-PC450S/K 以外の置台を使用する場合は「同梱部材編」の「3. ボデー枠着脱機構について」を参照ください。

カウンタ下の後付け

詳細施工例②

スペーサーの貼り付け

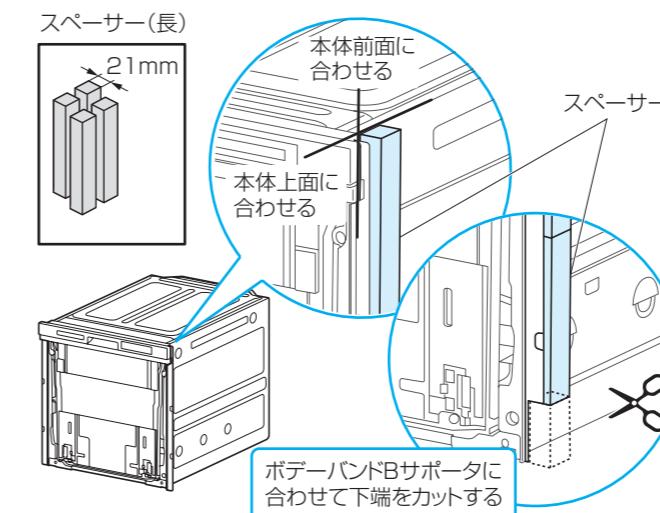
- (1) ビルトイン後に本体が横方向へ移動しないようにするため、同梱のスペーサーを本体の左右側面に貼り付けてください。 【図34】

【注意】

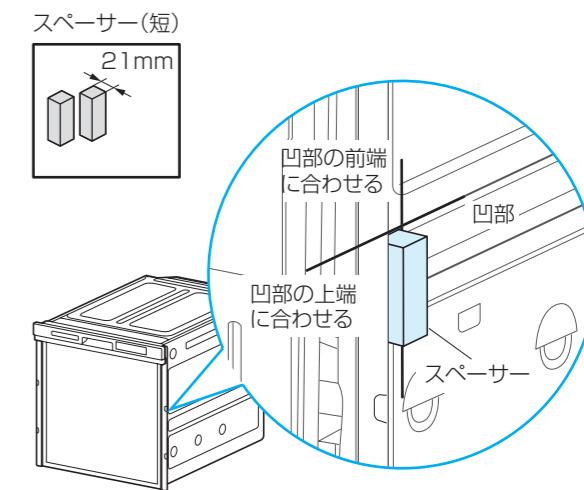
機種や置台の側板の状態によってスペーサーの形状や貼り付け位置が異なります。

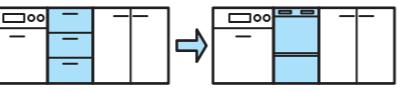
【図34】

MS9、VS9 シリーズ



RS9 シリーズ





10 本体の設置および固定

警告

ビルトインのとき電源コード、アース線、排水ホース、給水ホースに傷をつけない。

感電・漏電・火災や水漏れの原因となります。

電源プラグはコードが下向きになるよう上向きにし、コンセントに奥まで確実に差し込む。

上向きにするとプラグの接触が不安定になり、異常発熱して発火するおそれがあります。

アースを確実に取り付ける。

事故や漏電のときに感電するおそれがあります。

● アース工事は必ず販売店に依頼してください。

● 電源コードを切断したり、屋内配線ケーブルと直結したりしない。

● コンセントを床面にころがして、電源プラグを差し込み使用しない。

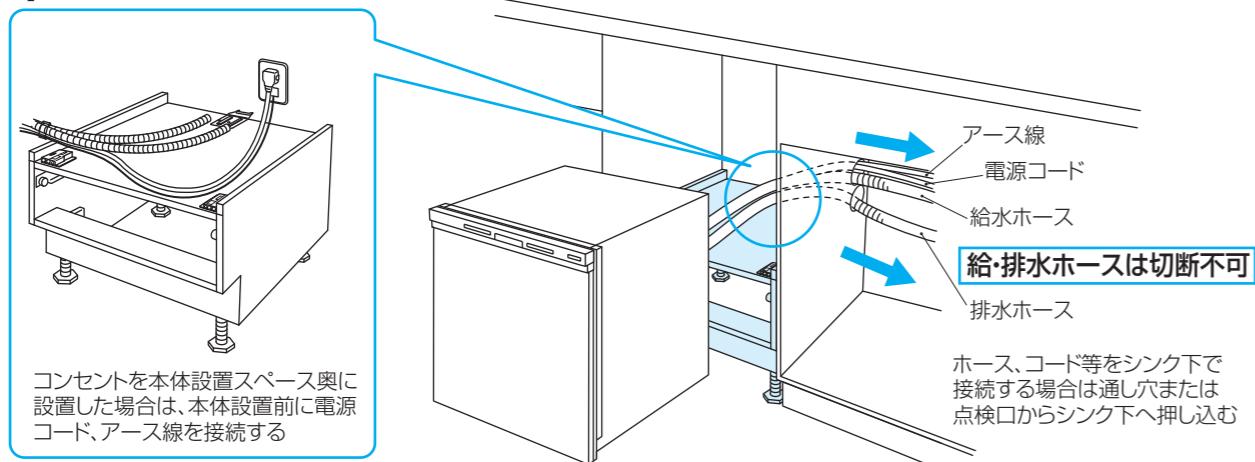
感電・漏電・火災の原因となります。

本体のビルトイン

(1) 電源コンセントを本体奥に設置した場合は、本体取付前に電源コード、アース線を接続します。 【図 35】【図 39】

(2) 電源コード、アース線、給・排水ホースを点検口または通し穴からシンク側へ押し込みます。 【図 35】

【図 35】

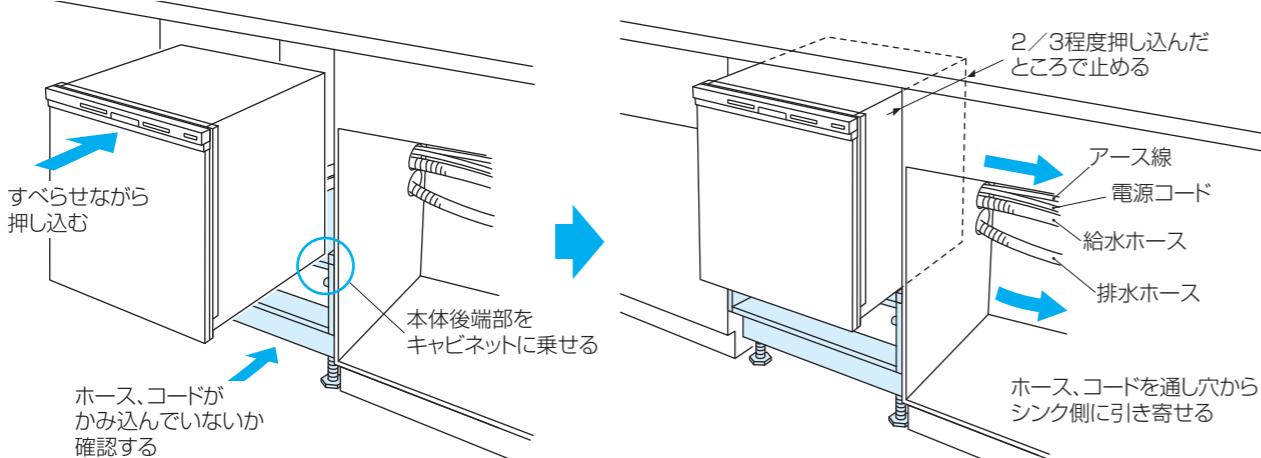


(3) 本体の下面を手で支えて後脚を下部収納キャビネットに載せ、下部収納キャビネットの上をすべらせながら押し込みます。

(4) 本体を2/3程度押し込んだところでいったん止めます。

(5) 電源コード、アース線、給・排水ホースを点検口または通し穴からシンク側へ引き寄せます。 【図 36】

【図 36】



カウンターアークの後付け

詳細施工例②

(6) 本体を転倒防止金具にはまり込むまで押し込みます。

(7) ドアを開けて上から少しづ力を加え、ガタツキがないか確認します。

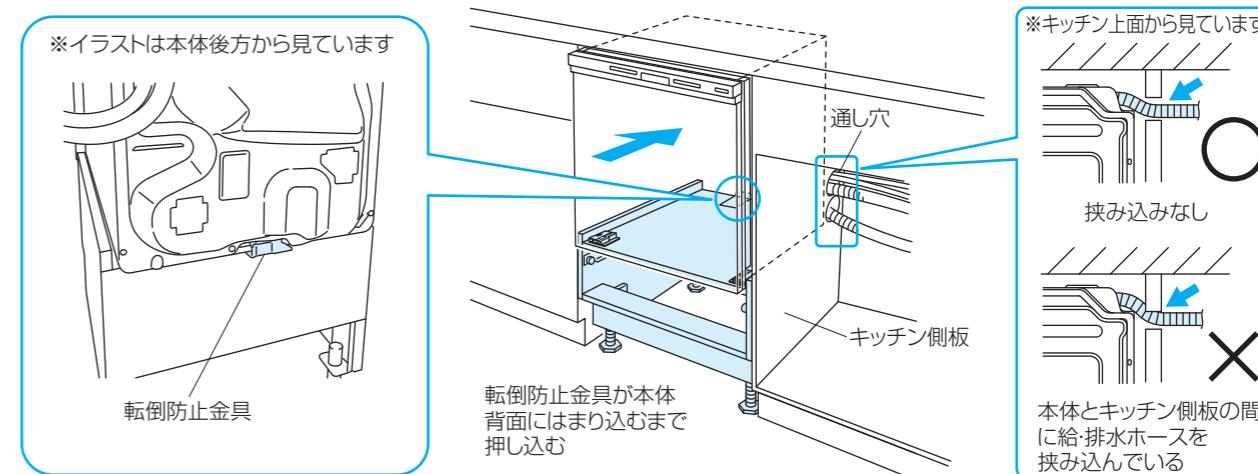
(8) ガタツキがなければ転倒防止金具が本体に確実にかかっていますが、ガタツキがある場合は本体を少し抜き出し、再度奥まで押し込んでください。

..... 【図 37】

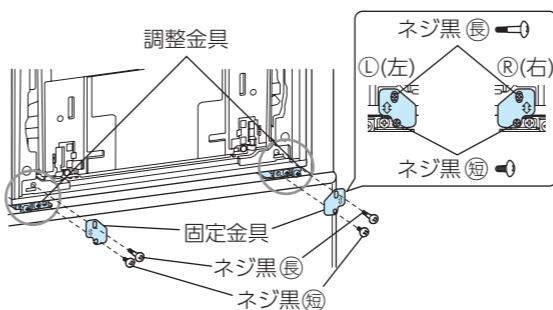
【注意】

本体の収まりが悪い場合は、本体と側壁の間に給・排水ホースが挟み込まれている場合があります。この場合は、通し穴を拡大する等処置を行って下さい。

【図 37】



【図 38】



※ 調整金具の調整方法は本「買替え・後付けマニュアル」の「同梱部品編」をご覧ください。

固定金具の取り付け

..... 【図 38】

(1) 固定金具(L)(R)の下方ネジ穴と、調整金具前面のネジ穴を合わせてネジ黒短で取り付けます。

(2) 次に固定金具(L)(R)の上方ネジ穴と、製品のネジ穴を合わせて固定金具をネジ黒長で取り付けます。

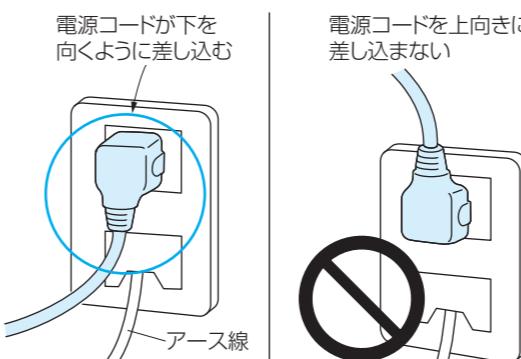
* 上記の順番で取り付けないと、固定金具が下がりキャビネットにキズを付けるおそれがあります。

注意

必ず固定金具を取り付ける。

ドアの開閉などにより製品が前へ動き、下部収納キャビネットより落下し、けがをするおそれがあります。

【図 39】



電源コードおよびアース線の接続

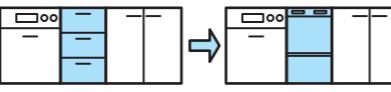
..... 【図 39】

(1) 電圧が100Vであることを確認してから、埋込みコンセントに電源プラグを差し込みます。

(2) アース線をアースターミナルに接続します。

【注意】

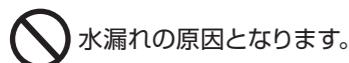
- コンセントを200V電源に通電すると、コントローラー(電装基板)が瞬時に故障します。
- アース線をガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には、絶対に接続しないでください。(法令等で禁止されています)



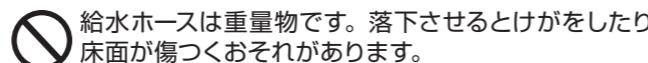
11 給湯（給水）管および排水管との接続

！ 注意

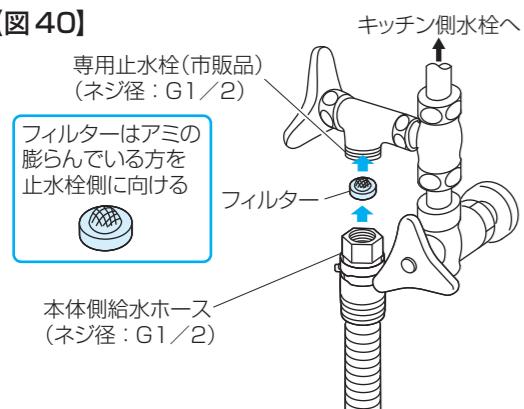
給水ホースおよび排水ホースは切断しない。



給水ホースを床面に落とさない。



【図 40】



給湯（給水）管との接続

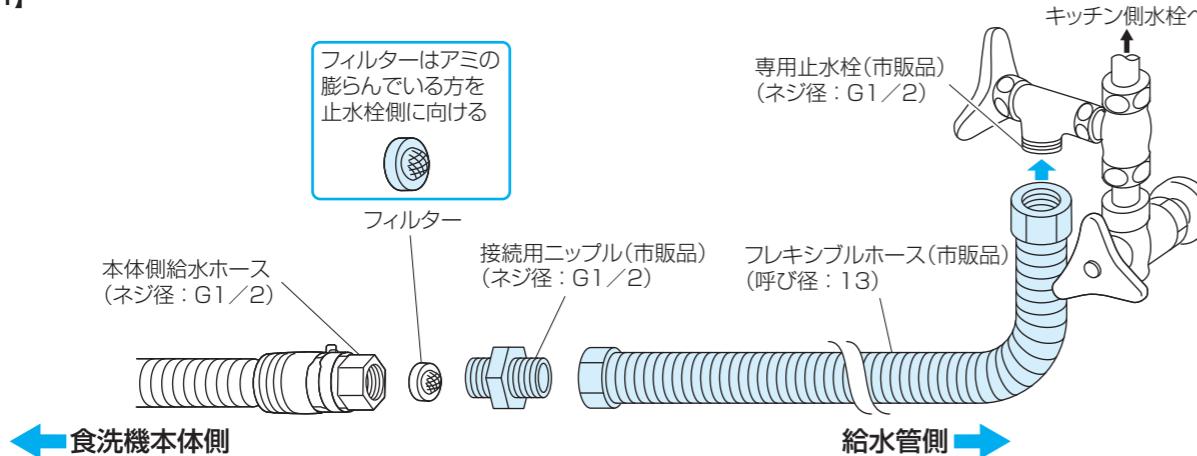
- (1) 給水ホースにフィルターを入れ、専用止水栓へ接続します。 【図 40】
- (2) 給水ホースのナットは手で軽く締め込んだ後、スパナ等で約半回転締め付けてください。

適正締付トルク: 5 ~ 10N·m{50 ~ 100kgf·cm}

【参考】

キッチンの給湯（給水）接続部まで本体の給水ホースでは長さが足りない場合は、市販品のフレキシブルホースおよびニップルを使用して給水ホースを延長します。 【図 41】

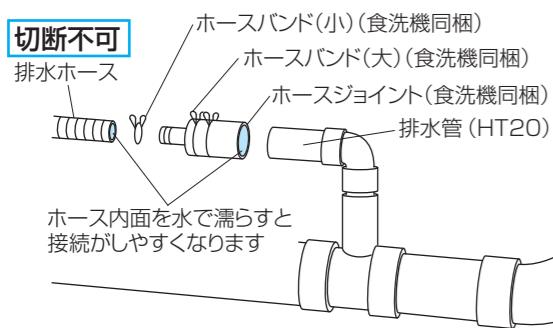
【図 41】



排水管との接続

- (1) ホースジョイントを排水ホース、排水管とそれぞれ接続します。 【図 42】

【図 42】



※HT: 給排水に使用するビニール製耐熱管

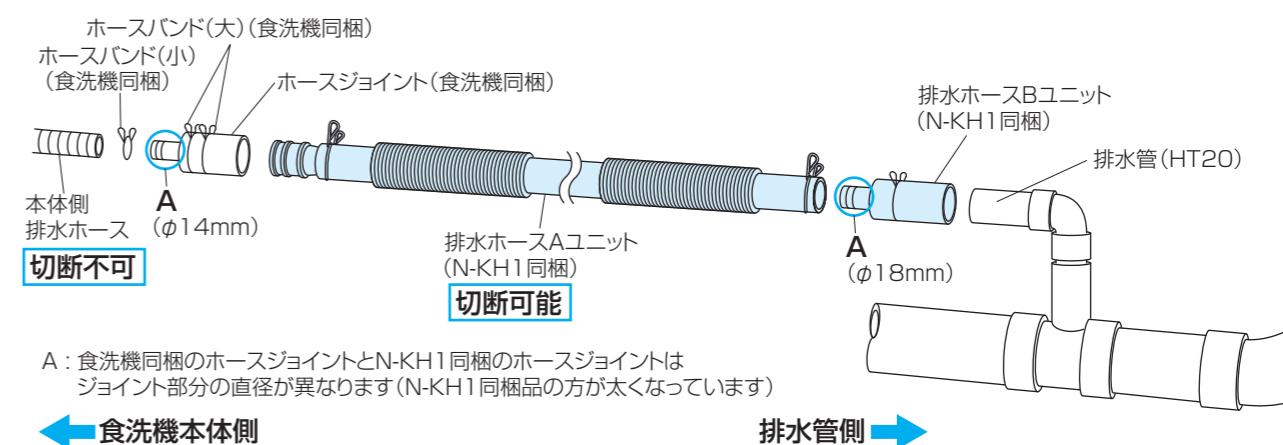
カウンターワークの後付け

詳細施工例②

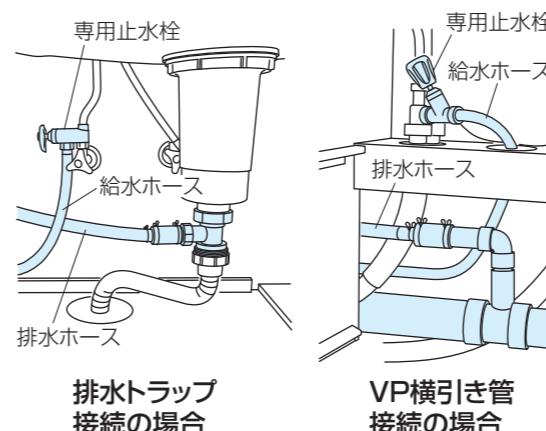
【参考】

本体の排水ホースではキッチンの排水接続部までの長さが足りない場合は、施工関連部材の簡易排水管（N-KH1）に同梱されている、排水ホースAユニットおよび排水ホースBユニットを使用して排水ホースを延長します。【図 43】

【図 43】



【図 44】



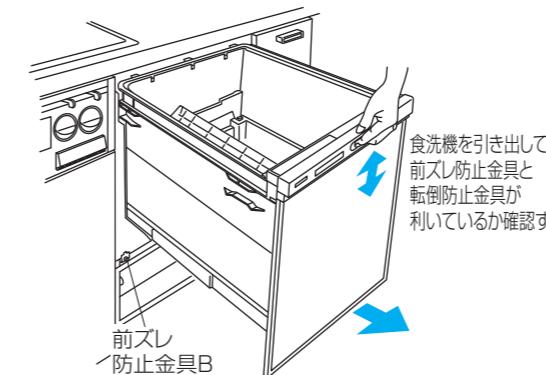
配管状態の確認

..... 【図 44】

- (1) 止水栓への接続状態やホースバンドの取り付け状態などを確認してください。
- (2) 給・排水ホースに折れや、ねじれ、たるみがないことを確認してください。

12 本体取り付け状態の確認

【図 45】

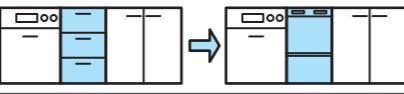


【注意】

本体のズレや傾きが起こる場合は、次の項目を確認します。

- ・転倒防止金具や前ズレ防止金具が正しく取り付けられているか
- ・電源コード、アース線、給・排水ホースが本体と下部収納キャビネットの間などに挟み込まれていないか
- ・下部収納キャビネットの水平は正しく調整されているか

全ての項目を確認して、異常がある場合は確実に修正してください。

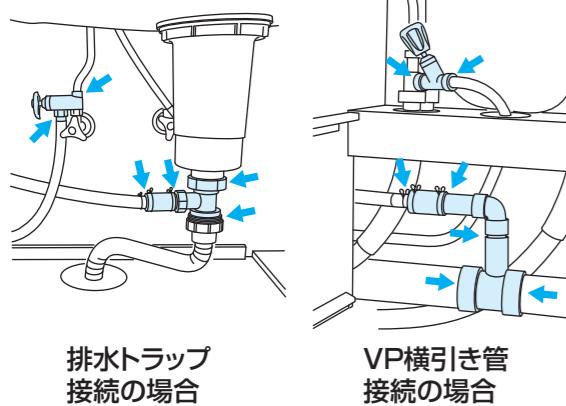


13 試運転の実施

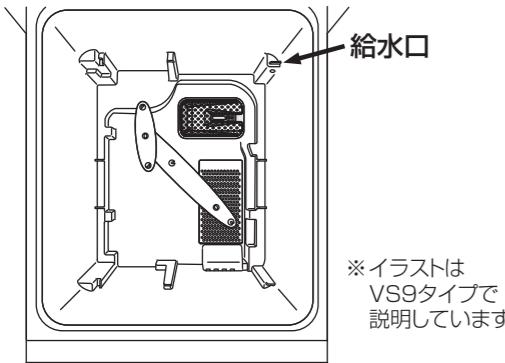
- 本体に電源が入ること、元水栓および止水栓が開栓していることを確認してください。
- 試運転は約3分で終了し、終了後電源が切れます。(表示が消灯します)
- 通電、通水が不可状態で試運転が行えない場合は、必ず通電、通水可能後に試運転を行ってください。(ドアを開けて、水や湯を入れて試運転を行わないでください)

MS9 シリーズ		VS9・RS9 シリーズ	
1 止水栓を開く。		1 止水栓を開く。	
2 「スタート/一時停止」ボタンと「コース」ボタンを押しながら「電源」ボタンを押す。		3 「コース」ボタンを押しながら、「電源」ボタンを押す。	
3 ボタンから手を離し、3秒以内に「コース」ボタンを押す。		4 「電源」ボタンを離して、「コース」ボタンを3秒以上押し続ける。	
4 ドアを閉じると、試運転が開始。 試運転中の表示(青色点灯) 		5 『ピピッ』とブザーが鳴ったら、「コース」ボタンから手を離し、3秒以内に「コース」ボタンを押すと、試運転が開始。 試運転中の表示 VS9 [低温 少量 標準 強力 予約 乾燥] RS9 [低温 少量 標準 強力 予約 乾燥]	
※ドアを閉じないと『ピピッピピッ』とブザーが繰り返し鳴ります。(閉じると試運転が開始)			

【図46】
矢印箇所の水漏れ確認



【図47】



次の項目を確認します

- バシャバシャという噴射音がするか
給排水の接続部や止水栓などから水漏れないか 【図46】
- 運転終了時、ブザーが鳴って、電源スイッチが「切」になるか
庫内の水が排水されているか
電源スイッチが「切」の状態で、洗浄タンク内の給水口から水が出ないか 【図47】

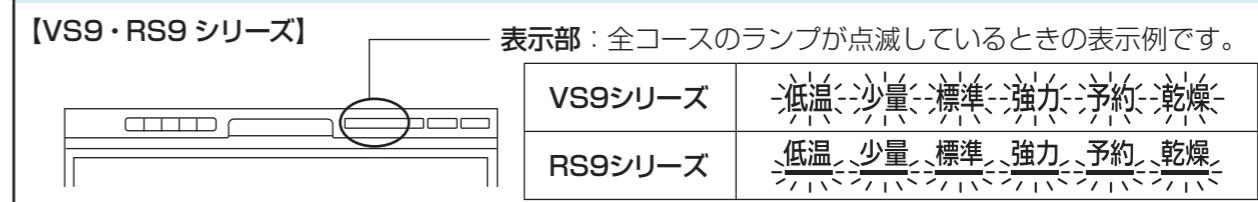
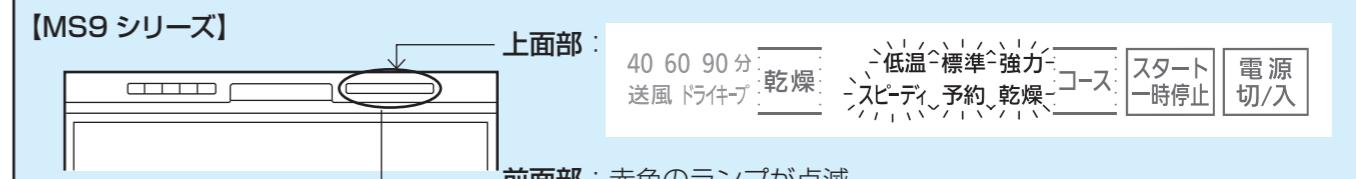
【注意】

試運転後は、止水栓を開いたままにしておいてください。長期間居住されない場合は、万が一の水漏れ防止のため、必ず家屋の元水栓を閉めてください。

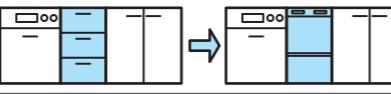
カウンターワークの後付け

詳細施工例②

試運転で表示部が点滅しブザーが鳴る場合は、以下の内容を確認・処置後、再度運転を行ってください。

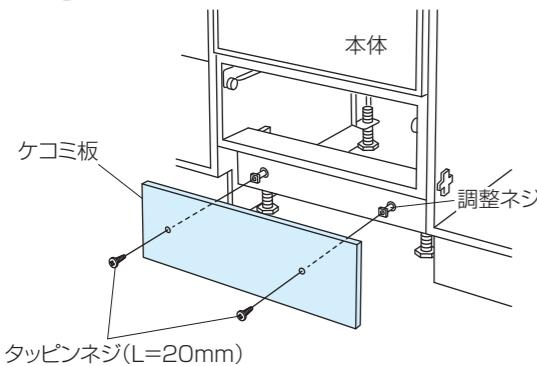


表示	原因	処置
[MS9 シリーズ] 上面部: 全コースのランプが点滅 前面部: 赤色のランプが点滅	ドア開異常 【MS9 シリーズ】 運転をスタートした後、ドアが確実に閉まっていない。	●ドアを確実に閉めると、運転が始まります。
[VS9・RS9 シリーズ] 全コースのランプが点滅	【VS9・RS9 シリーズ】 ドアが確実に閉まっていないまま、運転をスタートした。	【VS9・RS9 シリーズ】 前面部: 赤色のランプの点滅から青色のランプの点灯を確認
[MS9 シリーズ] 上面部: 低温 標準 強力 のランプが点滅 前面部: 赤色のランプが点滅	排水不良 排水ホースの折れやつまりによって、洗浄槽内の水が排水できないため。	●電源を「切」にする。 ●排水ホースに折れぐせがついているか確認する。 (折れぐせがついている場合は直す)
[VS9・RS9 シリーズ] 低温 標準 強力 のランプが点滅		
[MS9 シリーズ] 上面部: 標準 強力 のランプが点滅 前面部: 赤色のランプが点滅	給水不良 断水や止水栓／水道の元水栓の開け忘れなどで給水ができないため。	●電源を「切」にする。 ●断水の場合は断水の回復を待って運転する。 ●キャビネット内の止水栓および元水栓は必ず開栓する。 ●給水弁先端にあるフィルターの付着物を取り除く。
[VS9・RS9 シリーズ] 標準 強力 のランプが点滅		
[MS9 シリーズ] 上面部: 低温 強力 のランプが点滅 前面部: 赤色のランプが点滅	機内の水漏れ不良 本体内から水漏れしている。	①止水栓／水道の元水栓を閉める。 ②電源(ブレーカー)を切る。 ③本体底面の排水口キャップを外して本体内の水を抜く。 ④排水口キャップをもとの位置にはめ込む。 ⑤電源(ブレーカー)を入れる。 ※水漏れのおそれがあるため、販売店にご連絡ください。
[VS9・RS9 シリーズ] 低温 強力 のランプが点滅		



14 試運転後の作業

【図48】



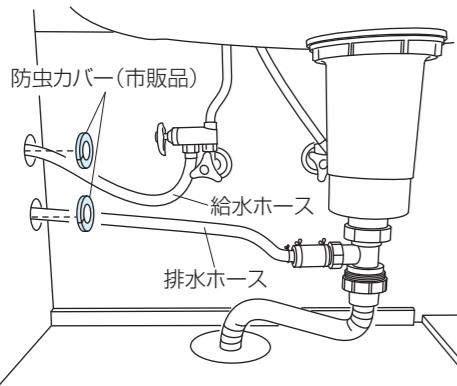
ケコミ板の取り付け

- (1) キャビネット同梱のケコミ板をカッターなどで切断し、高さ寸法を調整したうえで取り付けます。 【図48】

【参考】

下部収納キャビネットの取付説明書を参照して取り付けてください。

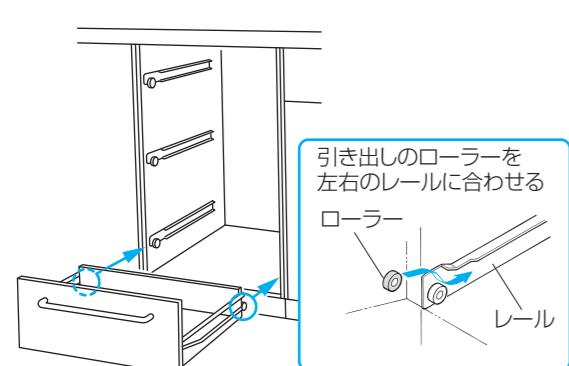
【図49】



防虫カバーの取り付け

- (1) 給・排水ホースの通し穴に、防虫カバー（市販品のカバーまたはプラスチック板を加工したもの）を取り付けます。 【図49】

【図50】



引き出しの取り付け

- (1) 引き出しのローラーをレールのローラーと合わせて引き出しを取り付けます。 【図50】

【参考】

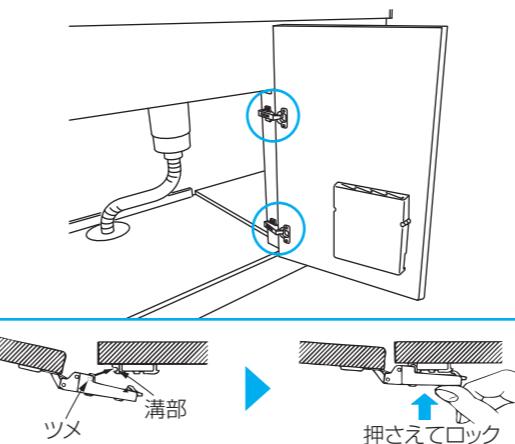
上記以外にも、ストップバーをロックして引き出しを取り付けるタイプもあります。

- (2) 下部収納キャビネットの引き出しを取り付けます。

カウンタ下の後付け

詳細施工例②

【図51】



開き扉の取り付け

- (1) 扉を保持します。
(2) 扉上側、扉下側の順にヒンジ本体のツメ部をプレートの溝部に差し込みます。
(3) ヒンジ本体を「ガチッ」と鳴るまで押させてロックします。

【参考】

上記以外にも、前後調整ネジにて扉を固定するタイプもあります。

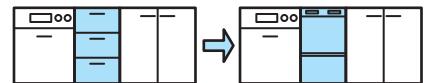
各部復元

- (1) 養生に使用したシート等を取り除きます。
(2) 撤去した器具等を復元します。

■ 設置後点検の実施

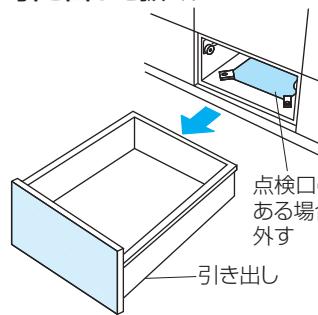
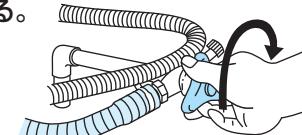
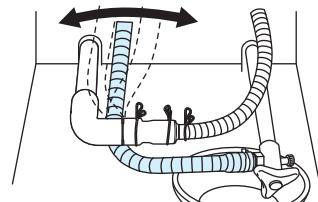
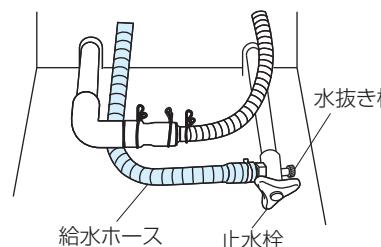
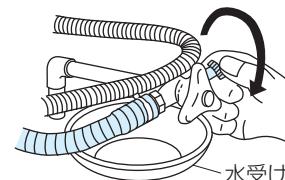
復元作業が完了したら、下表に従って設置後点検を実施してください。

点 檢	点 檢 内 容	参照ページ	チェック
機器およびその周辺	ドアの開閉 他の機器への障害はありませんか。	P.03	
転倒防止金具 調整金具	転倒防止金具および調整金具は取り付けましたか。	P.13 P.18	
給湯(給水)・排水接続	給湯器と接続の場合 指定する給湯器に接続されていますか。	—	
フィルター	給水ホースと止水栓との接続部にフィルターを挿入しましたか。	P.20	
排水ホース	排水管との接続部と確実に接続したことを確認しましたか。また押しつぶされたり無理に折れ曲がったりしていませんか。	P.15 P.18～20	
電気接続	電源コンセントは専用回路で、電源プラグは125V15Aのアースターミナル付埋込みコンセントに接続しましたか。 アース線を接続しましたか。	P.18	
試運転	試運転を行い、正常に動作しましたか。	P.22	



■ 水抜き（寒冷地にて長期間使用しない場合）の実施

寒冷地において冬季長期間で使用にならない場合には、以下の方法に従って水抜きを実施してください。

<p>①下部収納キャビネットの引き出しを抜く。</p>  <p>点検口のフタがある場合は取り外す 引出し</p>	<p>②止水栓を閉じる。</p> 	<p>⑤給水ホースを左右に振ったり、軽くたたいたりする。</p> 
<p>●給水ホースが止水栓に接続されています。</p>  <p>給水ホース 止水栓 水抜き栓</p>	<p>③水抜き栓の下に水受けを置き、水抜き栓を取り外す。(⑤図参照)</p>  <p>水受け**</p> <p>※約100mLが受けられるお皿や容器を準備。(高さ25mm以下)</p> <p>④電源を「入」にし、「スタート」ボタンを押す。(給水弁が開放される)</p>	<p>●残水が排出された後も水抜き栓開口部に乾いた布を押し当て、内部の水を吸いとる。 (水滴が落ちなくなるまで)</p> <p>⑥電源を「切」にし、排出水を処理する。</p> <p>⑦必ず水抜き栓を取り付ける。 ●止水栓は再使用するまで閉じたままにしてください。</p> <p>⑧下部収納キャビネットの引き出しおよび点検口のフタを取り付ける。</p>